

婦人と子ども

婦人の地位と子供の地位

文學博士 吉田熊次

婦人の心理を研究せらるゝ人は、斯ういふことを申して居ります。婦人は成人の男子と子供との中間に居るものである。言い換へれば、子供よりは幾分成人の男子に近い精神の働きを有つて居りまするけれども、然し男子の成人に比べると、反つて子供に近い精神の働きを有つて居るといふこととであります。今、一例を申しますならば、成人は過去、現在、將來の諸方面に深き考慮をめぐらすといふ點に於いて、子供に比して遙かに長じ

て居る。これに反して子供は、單に現在のことのみ支配されて居て、過去や將來のことを考へるといふことが出来ない。而して婦人はと云へば、子供のように現在にのみ支配されては居ない。一日の長は確にありますが、然し翻つて、男子に比すると、どうしても眼前のことにのみ支配されると云ふ傾がある。これは單に其の一例に過ぎませんが、兎に角、かういふ譯で、婦人は寧ろ子供に近いものとされて居るのであります。而して兩者の性情に於ける此の關係が、また社會上に於

ける地位に就いても、矢張り同様の關係があるように思はれるのであります。

二

未開人の風俗を書いたものによりますると、子供は絶対に親の所有物であつて、其の生殺與奪の權は一に父の掌中にある。これは古代の作法に徴しても明なる事實で、甚しきは父親が子を殺すといふことが、何の罪ともならぬと云ふような有様であつて、希臘の古代の如きは即ちこれでありませぬ。又、羅馬にあつては、法律上に於てまでも、親權といふことを絶対に認めて居るのであります。これは最も極端なる例でありますけれども、兎に角、子供は一人前の權利を持つものとは考へられて居なかつたのであります。

婦人に對しては、加程に極端でありませんが、稍々これに近い點があるやうに思はれます。婦人の社會上に於ける地位も、勿論、野蠻人と文明

人との間に多くの相違があり。昔と今とは、いろ／＼の變遷も經て居りますが、少くとも古代にありましては、婦人は獨立の人間として認められて居なかつたやうであります。我が國にあつても、昔から、婦人の道は人に従ふにあるとか婦人には三從の道ありとか云はれて居りますが、これは獨り日本ばかりではなく、外國に於ても、略同様に、婦人が法律上、獨立の人格として認められるに至つたのは、極く最近のことでありませぬ。而も其の認められたと云ふ人格も、男子のそれと同様に全く獨立し得た人格ではないのであります。或る國では、男女同權と云ふことを認めては居りませぬ、然し殆んど總ての國は、未だ婦人の選舉權さへも與へて居ないばかりではなく、相續權すらも、男子と女子との間に、大なる相違がある。斯く考へて來ますると、社會上に於ける婦人の地位と云ふものは、子供のそれと甚だ似た處があると

思はれるのであります。

三

更らに之れを他の方面から考察いたしますると
少くとも過去に於いては、子供は父母其の他の人
の弄み物とされて居たのであります。吾々が子供
に接するには、飽くまでも子供を尊重し、子供を
思ひ、子供を愛する眞摯なる心持ちを以つてせな
ければならないのに、どうも一般にそれが少いよ
うに思はれるのであります。勿論、無暗にしかつ
めらしい、厳格な態度で子供に接しようと云ふの
ではありません、然し乍ら、子供と共に遊ぶと云ふ
こと、子供を玩弄物として、自家の弄み物にす
るといふことは其の間に顯然たる差異のあること
を知らなければなりません。子供と共に遊ぶと云
ふことは、即ち子供を尊重すを所以であります。
これに反して、子供を弄み物にすると云ふことは
自家の爲めに子供の全人格を没却して、親の所有

物とする所以に外ならぬのであります。そして、
少くともこれ迄の一般社會では、第二の弄み物と
して取扱つて居たと云ふ傾が多いように思ふので
あります。

これは、子供の社會的地位に就いて申した言葉で
ありまするが、婦人に對しても、略これに近い傾
があると思ひます、勿論、歐米諸國にありまして
は、最も眞面目なる態度で、婦人に對すると云ふ
ことはあります、然し乍ら一個の男子が男子に對
する時と、女子に對するときは、どうも其の
態度や心持ちに、さまざまの差異があるように思
はれます。先づ其の著しき點は、婦人に對すれば
必ずお世辭や愛嬌を振りまくものとされて居る點
であります。何故婦人に接すれば、必ずお世辭や
愛嬌を云はなければならぬか、婦人をして子供の
場合と同様に、一種の玩弄物視して居るから、そ
ういふ間違が起るのであります。これが一步極端

になると、婦人と云ふ觀念には、嘲弄とか、玩ぶとか云ふことが離すべからざるもの、如く考へるようになつて來るのであります。

四

婦人の地位を斯くまでに至らしめたこと云ふことは、其の精神の働きが子供に似通つて居ると云ふことが、其の原因の一にもなつて居ようと思はれます。斯う考へて來ますると、婦人と子供とを一緒に取扱ふのも當然であると考へられるかも知れぬ。ところが輓近に至り、婦人の自覺に伴つて、其の人格の獨立を主張する聲が漸く盛んになつて來たことは、明なる事實であります。然らば、子供に對しては恠うかと云へば、これも亦、或る程度までは同様の趨勢に趣いて居ると云つていゝのであります。スウェーデンの女流文學者エレン、ケーが『二十世紀は兒童の世紀である』と申しますように、次第に子供の權利を尊重するようにな

り、従つて其の保護と云ふようなことも、次第に盛んになつて來たのであります。

然しながら、子供を尊重せよと云ふことは、子供の子供たる特性を没却せよと云ふ意味ではない。「子供は子供らしくせよ。」と云ふことは、何れの國にも通ずる眞實なる教訓であります。僅に着物に特別の様式が自然の中に定められて居り、夜寢るのにも朝起きるのにも、成人には其の時間を異にして居ります如く、其の間に種々なる自然的相違がなくてはならぬ、言ひ換へれば、婦人は次第に男子と同様の地位に進んで行くべきであるが子供は、或る意味に於いてどうしても成人と違ふ處がなくはならぬと云ふのが歐米に於ける一般の趨勢であります。

然るに我が國に於ては、これと全く反對の現象があるように思はれるので、我が國に於ける婦人

の地位と云ふものは、歐米諸國に於ける婦人の地位の如く、次第に高みつゝあるとは、どうしても考へられないのであります。成る程、これを封建時代に比すれば、同日の比ではありますまいが、然し歐米諸國の現在に比すれば、其の遜色の甚しきを思はざるを得ないのであります。昔に婦人に對する男子の態度が、そうであるばかりではなしに、又、婦人自らが男子と同様の權利を得ようと云ふ切實なる要求がないばかりではなしに、反つて、婦人自らが、男子の機嫌を取り、男子の玩弄物となることを喜ぶといふような様子さへも見えるのである。若し婦人が自ら尊嚴を保つ爲めに、身なりを調へると云ふならば其の理はあるが、日本の婦人は、そうではなく、人を喜ばしめんが爲めにするると云ふ風がありはせないかと思はれるのであります。何れにしても、我が國に於ける婦人の位地は、歐米に於けるその如くに、男子に接近

しつゝあるとは云ひ難ひのであります。

五

之れを子供の方に就いて考へて見ますると、又特殊の關係が見出さるのであります。と云ふのは、西洋では子供の權利を尊重することは勿論でありますが、然し其の一面に於いて、子供は飽くまでも子供らしくさせると云ふ美點が具つて居る、然るに日本では、子供と成人との間には此の點に於いて、餘り差異がないように思はれるのであります。例へば、歐米では、成人だけのものとなつて居る芝居の如き娛樂機關は、日本にあつては、子供も同等にこれに興ることを妨げない、又、子供は其の子供であると云ふ事の爲めに、又其の子供らしいと云ふことを完からしめんが爲めに、家婢に對してさへも相當なる尊敬を持せると云ふのが歐米一般の習慣であります。然るに日本では殆んどさういふ美點を見出す事が出来ないばかり

ではなく、父母までが、坊ちやま、嬢ちやままで、子供の自尊心を助長せしむると云ふのが普通になつて居る。子供の権利を尊重せよと云ふことは、決して斯ういふ意味ではあるまいと思ひます。

要するに、社會上に於ける婦人の地位と、子供の地位との正當なる定め方に就いては、別に深が研究を要すること、簡単に申述べると云ふことは出来難いのでありますが、然し社會は、成人も、子供も、男子も、婦人も、それ／＼適當なる職分と、地位とを占めることに依つて、初めて社會生活の完きを得るのでありますから、我が國と歐米諸國とに於ける婦人の地位が並行して居ないと云ふ點は、餘程眞摯なる研究を要することであり、私一個の考へでは、寧ろ我が國の社會的關係は、寧ろ正當であるとは云い難いと考へるのであります。これ等の點に就いて、婦人自らの深き内省と、自覺とを要求し度いと云ふ考へから

氣附いた點を一言した次第であります。

(談文責在記者)

夏 の 日

○夏の子供は如何にしてよく遊ばせようかとは誰れも苦心することである。そこを考へて神田東洋幼稚園の岸邊福雄氏は夏の幼稚園といふを實行せられるそうである。同園には去年も一度試みられた由であるし。充分の成功を期す。佐賀縣伊萬里町の私立伊萬里幼稚園でも此の種の御工夫があるといふことを同園主八起マサ子氏から御知らせがあつた。其の他會員諸君の中にもそれ／＼御實行も御意見もあることと思ふ。

○此の雜誌の發刊せらるゝ頃はフレブル會夏期講習會中と思ふ會員諸君の健康を祈る。